

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

- 1 学校名：岩手県盛岡市立仙北小学校
- 2 実施日時：2018（平成30）年12月4日（火）10:40～11:25
- 3 対象：5、6年生児童 242名
- 4 派遣アスリート：福田 正博さん  
(サッカー日本代表)

5 授業内容：講演、実技指導

2018（平成30）年12月4日（火）に、岩手県盛岡市立仙北小学校にてオリパラ教育実践が行われました。今回の実践には、Jリーグの元プロサッカー選手だった福田正博さんを講師としてお招きし、講演および実技指導が行われました。

福田さんは、Jリーグで12年間プレイされ、その間には日本人初のJリーグ得点王になる等の活躍を収められました。現役引退後は、メディア関係や子どもたちにサッカーを教える仕事に携わっていらっしゃるということです。

「夢とチャレンジ」という講演のはじめには、福田さん自身のプロフィールを紹介しながら、身近な話で児童の緊張を解いていました。その後、「夢を持とう」、「チャレンジしよう」と大人が何度も言うのはなぜだと思いかと児童に問いかけ、それは、夢やチャレンジが大切なことだけど、すぐに当たり前になって忘れてしまうからだとお話しされました。

そして、夢に向かうとき、チャレンジするとき大切なことの1つとして、スポーツ場面での例としてフェアプレイのお話をされました。福田さんは、ルールを守ることはフェアプレイの一部であって、自分に関わるすべてのヒトやモノ、コトを大切に思うこと、それらに感謝することがフェアプレイであるとお話しされました。また、それらに加えて最も大切にしなければならないのが、自分自身だとお話しされました。自分を大切にすることは、自分勝手な行動をすることではなく、周りのヒトやモノ、コトを大切にしている自分を大切にすることであり、そうすることで自分も成長できるとメッセージを伝えていました。また、そのためには自分自身に余裕を持つことが必要だということもお話されていました。

何かを成功させるために必要な2つの条件として、福田さんは、実力をつけることと、運を引き寄せることを挙げていました。特に運を引き寄せるためには、自分がついていると思ひ込むことや楽しもうと努力すること、また、言葉を変えることによる思考の変化が大事とお話しされました。そして、そのためには笑顔でいることやありがとうという気持ちを持ち続けることが大切というアドバイスも送っていました。

最後に、夢に大小はない、今ない人も焦らずにゆっくり見つけてほしいと児童に伝えるとともに、もし夢や目標があって、それにチャレンジできれば、人生がより充実したものになるとメッセージを送っていました。

講演のあとには、質疑応答の時間が設けられました。児童は、福田さんの経歴等について事前学習を行った際、福田さんへの質問を考えたということです。時間の関係上、担当の先生によって選ばれた代表の児童が、夢やチャ

レンジに関する質問をしていました。福田さんは、夢に向かって努力しているときに心の支えになったものは何かという質問に、チームのサポーターや家族を挙げたり、Jリーグや世界で活躍できる人はどんな人かという質問に、当たり前のことが当たり前に行っている人と答えていました。また、憧れだった選手には、ブラジルの選手を挙げ、当時一緒にプレイしたことは今でもはっきりと覚えていると話していました。今の夢は何かという質問には、子どもたちの夢をサポートすることと答えていました。

実技指導の場面では、代表児童13名がリフティングや2人組でのパスを前で行い、それに対して福田さんが声をかけていました。特に、ボールを持っていない人の準備やコミュニケーションが大切と伝えていました。

記念撮影をした後、代表児童が感想を述べ、その後、福田さんは、児童の間をハイタッチしながらこやかに歩いて退場し、実践は終了となりました。

短い時間での講演および実技指導でしたが、児童たちが熱心に話を聞く姿や、質疑応答の時間に多くの児童が積極的に手をあげていた姿が印象的な実践となりました。

## 7 授業の様子



【 講演① 】



【 質疑応答 】



【 実技指導① 】



【 実技指導② 】



【 記念撮影 】



【 退場 】